

保育分野「親の役割と子どもの人間形成」にロールプレイを活用した実践 (中間報告)

1 実践事例について

共通教科「家庭」の科目である「家庭基礎」において、保育分野で親の役割と子どもの人間形成に関するロールプレイを使った学習を行う。3つの事例を用いて、事例ごとに段階的に思考を深めるようにした。シナリオは、現在子育てにおいて多いケースである「育児に積極的であってもできない事もある事例」「性別役割分業観をもつ父親と男女共同参画意識をもつ母親の育児事例」「嫌いな食べ物がある子どもへの接し方についての事例」を取り入れた。この演習において、どのように考え、どう対応するのか判断することを通して、子どもを育てる親としての自覚をもたせることをねらいとした。

2 学習活動の概要について

(1) 単元名

子どもの発達と保育

(2) 単元の学習目標

ア 乳幼児の心身の発達と生活，親の役割と保育，子どもの育つ環境について理解する。

イ 子どもの健やかな成長のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識する。

(3) 評価規準

〈関心・意欲・態度〉 保育に関心をもち，男女が協力して家庭を築くという視点から，実践的・体験的な活動を通して，親の役割と保育の重要性について考えようとしている。

〈思考・判断・表現〉 子どもの発達と保育について，現代の家庭生活を見つめて課題を見いだし，課題解決を目指して思考を深め，適切に判断し，表現している。

〈技能〉 子どもと適切に関わることができ，子どもの発達を支援するために，必要な技能・技術を身に付けている。

〈知識・理解〉 子どもの発達について理解し，家族及び地域や社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。

(4) 単元の工夫

ア 子育ての様子を観察できる場面や乳幼児との触れ合いや交流といった実践的・体験的な学習活動を取り入れ，子どもと関わることに興味をもたせる。

イ 乳幼児期は基本的な生活習慣の形成が重要であることを理解させるためにICT機器や実物見本，具体的な育児に関する事例を用いてより分かりやすく授業展開をする。

(5) 主な学習活動

ア 題材の指導計画（全8時間）

学習項目・（時）	学習活動（時）	言語活動に関する指導上の留意点
子どもの心身の発達 （4）	次世代を育てるといふこと（1） 胎児は母体とともに（1.5） （別添資料1）	・日常生活や体験の中で感じ取ったことを，言葉で表現させる。 ・シナリオを読んだ上で，自分の知識や

	子どものからだの発達（1） 子どもの心の発達（0.5）	経験を踏まえて自分の考えをまとめさせ、表現させる。
子どもの生活と親の役割（3）	親と子 - ともに育ちあう関係（1.5）（1/1.5 本時） （別添資料1） （別添資料2） （別添資料3） 子どもの生活（1.5） 子どもの遊びと発達（0.5）	（別添資料1・2・3） ・課題について意見を交換させる。 ・自分と異なる考えにも耳を傾け、相手の考えを受け入れることができるように配慮する。 ・男女や親子の配役を交代することによってお互いの気持ちを考えさせる。
子どもをとりまく環境と福祉（1）	子育て支援と地域の交流（0.5） 子どもの人権と福祉（0.5）	・「地球上の子どもたち」をテーマに小論文を書かせる。

イ 本時の学習（5/8時間）

(ア) 学習目標

- ① 育児にかかわる親の在り方について具体的な事例のロールプレイを行い、子どもを生き育てることについて考える。
- ② 親には次世代を担う子どもを健やかに育てる責任があり、子どもと適切に関わり、ロールプレイを通して具体的な事例を基に、子どもとのコミュニケーション能力を高めることが重要であることを理解する。

(イ) 本時の展開

- ① 配役を決めてシナリオを読み合わせる。また、配役を替えて読み合わせを行う。
- ② 共感したこと、理解できなかったこと、分からないことを（ ）に記入する。
- ③ せりふを考えて入れる演習を行う。
- ④ 子どもとの関わり方について考える演習をする。
- ⑤ シナリオについてグループで話し合いを行った後、各自の考えをまとめる。

(ウ) 言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成するための手だて

【思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類】

- ① 体験から感じ取ったことを表現する。
- ② 事実を正確に理解し、伝達する。
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④ 情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

① ロールプレイングの工夫（分類①より）

シナリオを読んでいく中で感じ取ったことを表現させる。役割を交代して読むことにより固定観念からの脱却を図るようにする。

② シナリオの工夫（分類⑤より）

シナリオに自分の考えを話すせりふを設定し、具体的に表現させる。考えた内容について他者の意見を聞き、自分の考えを振り返らせる。

③ 意見交換の工夫（分類⑥より）

それぞれが考えたせりふや内容に関する意見交換を通して、現在の子育てに関する課題について考えさせる。

(エ) 評価の観点（思考・判断・表現）

① シナリオから自らの知識や経験を踏まえて自分の考えを表現することができたか。

② お互いの考えを伝え合い、自分の考えや集団の考えを発展させることができたか。

(オ) ロールプレイ演習における評価

別添資料4のように評価の判断基準を定めた。

ウ 授業実践を終えて

(ア) ワークシートより

<ロールプレイ1>

- ・男性も育児休暇を取れるなんて知らなかった。
- ・こういうイクメンが増えるのは女性にとっても負担とかストレスが減るからいいと思う。
- ・お互いのことを尊重してとても仲がいい。
- ・二人とも育休を取って子育てに積極的でよい。
- ・夫に育休を取らせるのはよくない。

<ロールプレイ2>

- ・男性がとても自己中心的。二人の子どもなので二人で育てるべき。
- ・育休を取りにくい状況かもしれないけど、誰かが第1号にならないと変わらない。

<ロールプレイ3>

- ・母親は嫌いなものを食べさせるためにいい作戦を考えたなと思った。
- ・子どもは好き嫌いが激しいから、こういうふうによく嫌いなものを食べさせるようにするのが大切だと思った。
- ・もし子どもが生まれて好き嫌いがあれば、そのままにしないで好き嫌いをなくす努力を親になったら子どものために子とともにやってみようと思いました。
- ・好き嫌いを許すのはよくない。そのうち食べれるようになるなんて放っておくのはダメ。

(イ) 生徒の変容

子育てについては、育った家庭の影響が大きく、自分の家がそうだからこうするものだという意見が男子から比較的多くみられた。しかし、実際に具体的な事例を用いることで意見も活発に出され、他の人の意見を聞くことで、固定観念が変化するという効果をもたらした。

3 授業実践の成果と今後の課題

今年度は実践方法に研究の重点をおいた。この演習は、生徒にとってハードルの高いものでなかったために、生徒は育児についてのシナリオに興味を示し、自分の意見を述べ、人の意見に耳を傾けることができた。一つ一つのせりふへの意見に賛否両論があり、友人の意見を聞いて、育児への考えに幅を広げ、実生活に役立つ授業が展開された。言語活動を通して親としての在り方を考えることは有効であったと言える。

今後は、自分のことを思うのと同様に相手を思いやる心を育てることと、将来を見通して人を育て

ることを課題に，ロールプレイ 2 のせりふをいれるところで，「関係が悪化する内容」「希望がもてる内容」をグループごとに考えさせたい。また，ロールプレイ 3 では，現段階より進行した親子のやりとりを考えさせることも課題である。さらに，評価の仕方をいかにすべきかを検討し，継続研究に取り組んでいきたい。

<参考文献・資料>

『高等学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 2010 年 5 月

『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校 共通教科「家庭」』
文部科学省 国立教育政策研究所 2012 年 7 月

『高等学校家庭基礎 ともに生きる・未来をつくる』 第一学習社 2012 年 3 月検定済

『毎日新聞』 2012 年 8 月 14 日夕刊

『毎日新聞』 2012 年 10 月 19 日朝刊